

永松だより

松源寺開創

500年

平成33年・2021年



みなさまのお知恵とお力を合わせていただき この佳きめぐりあわせを寿ぎましょう

しょうげんじさんじゅうしせちかんこうぜんたいおしょうせんげ
松源寺三十四世智貫孝善大和尚遷化

曹洞宗大蔵山松源寺第三十四代のご住職であった東海孝善老師は、三月二十日午前八時にご逝去されました。この度は、密葬が執り行われました。本葬は六月に予定されています。

密葬速夜(通夜) 前夜まで、永松閣(庫裏二階)



東海孝善老師

に祭壇が設えられ、涅槃図に見守られるように、ご遺体が安置されました。

三月二十四日午後四時から、密葬速夜が本堂にて、導師鉤取寺東堂老師により執り行われました。夕日影が差し込むなか、導師の入場から、式次にのつと



永松閣 涅槃図に見守られる祭壇



密葬速夜 導師鉤取寺東堂老師



密葬 導師御本寺輪王寺大方丈

り儀式は進行していきます。参列者全員がご焼香、現住職の御礼挨拶、導師の退場まで、滞りなく閉式を迎えました。三月二十五日午前一〇時から、密葬

が本堂にて、導師御本寺北山輪王寺大方丈により執り行われました。清浄な本堂に五〇名に上る僧侶の皆様、お檀家の皆様、ご近隣の皆様、総勢一〇〇名を数える方々が集いました。ご導師により、悲しみのうちにも荘厳な雰囲気になった儀式は滞りなく執り行われ、閉式を迎えました。

閉式後、出棺の準備が進められました。参列された皆様は、こもごも花を御棺に敷き詰めてゆきます。最後のお別れの言葉を掛けながら手を合わせます。出棺の準備が終わり霊柩車に収められ、山門を出てゆかれました。

孝善老師は、昭和十二年三月十八日に、この松源寺にて生まれました。(2面に続く)

本葬のご案内

「松源寺三十四世智貫孝善大和尚」東海孝善老師の本葬は百廿日(卒哭忌)に合わせ、次の日程で執り行います。松源寺を四〇年以上の長きにわたって守り続けてきた前住職に対して報恩の誠を捧げていただきたく、多くの檀信徒の皆様にご参列賜りますよう左記に日程をお知らせ致します。

本葬

平成26年6月27日(金)

式場 松源寺本堂

詳細は、決まり次第、改めてご案内致します。

本葬までの法要日

初七日忌(初願忌)	3月26日
二七日忌(以芳忌)	4月2日
三七日忌(酒水忌)	4月9日
四七日忌(阿経忌)	4月16日
五七日忌(小練忌)	4月23日
六七日忌(壇弘忌)	4月30日
七七忌(大練忌)	5月7日

昭和二十四年二月十五日に得度され、僧籍に入られました。昭和四十四年三月六日から平成二十二年四月一日まで、四〇年を超えて松源寺第三十四代住職を務めました。昭和四十七年緋恩衣許可。平成十一年四月五日に黄恩衣許可。そして、平成二十一年三月二日に、住職勤続四〇年の表彰を受けました。

また、積極的に社会活動に参画し、土樋町内会のお世話役、仙台地区保護司会理事、荒町地区児童福祉協議会会長など、数々の社会活動の要職を務め、その社会貢献が認められ、厚生大臣から一回、法務大臣から二回の、合計三回の大臣表彰を受賞しました。六五歳の折に大病を患い、長い闘病生活をすごしておられました。七七歳のご生涯でした。

さがたず 探し訪ねて

松源寺の御縁

第2回

二〇二二年（平成三十三年）の松源寺開創五〇〇年までに『松源寺縁起』として、故事来歴や御縁のある人々を探し訪ねて。さて今回は結城義親です。どのような方なのでしょう。

■結城義親 白河城主の最後が、この義親である。不説齊入道ともいった。小田原の北条氏康、越後の上杉謙信、会津の葦名盛氏、米沢の伊達正宗などとの間に、時に交わり、時に戦い、あるいは同盟し敵対して、戦国末期を生き伸びた。天正十六年（二五八八）五月、仙道諸將と同盟して伊達正宗と

お檀家の皆様から、孝善老師を偲ぶ次のような言葉が聞かれました。人の心の機微をよく心得、人の話をよく聞いてくださり、悩みや相談にも気さくに



出棺 位牌を持つ現住職



出棺 多くの手に支えられて



出棺 山門を出る

応じてくださるかたでした。そして何よりもみんなを楽しくさせてくれる優しい方でした。心からご冥福をお祈りいたします。

人取橋に戦ったが敗れた。翌十七年には伊達正宗と誓詞を交換して和した。豊臣秀吉からも内書を送られていたが、ついに小田原不参の罪を問われ、天正十八年（一五九〇）、大崎・葛西氏らとともに領地没収の憂き目にあい、白河城を明け渡したのである。この時、家臣中嶋兵庫は、他の諸侯は自分で出向いて機嫌伺をしているというから、もし主君が行けないなら、自分が名代になって行くと言ったが、これも実現せず、ついに領地を没収されたのである。一時、城外の金勝寺に移り、謹慎の意を表したが、領土の返される様子もないので、那須の湯元温泉等に立退いた。その後会津に流浪して一一年、慶長六年（一六〇一）、先の盟約（天正十七年七月二十六

日伊達正宗の血誓の證文）によって、片倉小十郎影綱を使者として仙台に迎えられ、伊達氏の客分となり、三五〇石（百人扶持）と屋敷を土樋に賜って居住した。この義親一代は客分として待遇され、寛永三年（一六二六）二月二十六日、八六歳で、その数奇な一生を閉じた。遺骸は茶毘に付して、高野山清浄心院に葬り、位牌は土樋松源寺にある。（『一迫町史』昭和五十一年九月発行）〈第3号に続く〉

8月までの行持

5月10日 永松会総会	9月20日～26日 秋彼岸
6月30日 第一教区護持会研修会	9月26日 第一教区萬燈会法要
8月13日～15日 盂蘭盆会	圓福寺（石名坂）
8月14日 大施食会	未定 松源寺研修旅行

釈尊涅槃会

2月15日



お釈迦様のご命日である涅槃会の日には、全国各地の寺院でお釈迦様の最後の様子を描いた「涅槃図」をかけて、そのご遺徳をしのぶ法要が行われます。平成二十六年、松源寺では二月一日に涅槃会が行われました。お檀家の有志の皆様が参列し、ご法要とご供養が行われました。松源寺の「涅槃図」は、嘉永四年二月（一八五一年三月）に、大町二丁目伊勢屋惣五良から第二十四世東倫代に寄贈されたもので



涅槃図



涅槃会ご法要



涅槃会ご供養

す。お釈迦様は、いよいよ自分の死が近いことを察し、「私の亡きあとは、自分自身をより所として、また私が伝えた教えを、闇を照らすともしびとして、歩んでゆきなさい」と弟子たちに説かれたというこです。松源寺の「涅槃図」は、どなたでもご参拝できますので、来年は是非ご参加ください。

釈尊降誕会

4月8日



四月八日は、お釈迦様のお誕生をお祝いする日です。お釈迦様は、今からおよそ二五〇〇年前に、インド国境に近いネパールのルンビニーの花園で生まれました。その為に、お釈迦様の誕生日のお祝いを「花まつり」といいます。この四月八日、松源寺本堂に、婦人会の皆様が三〇名ほど参列し、



降誕会ご供養

花祭りと、三十四世孝善和尚三七日のご供養を行いました。般若心経を唱えて、誕生図の前でお釈迦様に手を合わせ、孝善和尚の祭壇にご焼香をしました。誕生図は、平成十八年に松源寺寺族である東海悠子氏により寄進されました。六地藏菩薩ご供養は外に出て執り行われました。紅梅に、うぐいすが三羽四羽とたわむれる穏やかな春の一日でした。



降誕図



六地藏菩薩ご供養

編集部からのお知らせ

松源寺開創五〇〇年へ向けて、松源寺は様々な取り組みを始めています。この「永松だより」もその活動の一つです。以下三点について、ご投稿をお待ちしています。

●「めでたし」 ご家族ご親族の慶事をお寄せ下さい。「永松だより」でお祝いしましょう。入学、進学、昇進、結婚、授章、その他諸々の喜びごとなど。

●「私は思う」 日常生活の中に生まれる、身近な悲喜こともごもから思うことを、四〇〇字以内でお寄せ下さい。

●「探し訪ねて 松源寺の御縁」 松源寺についてご存知の事をお寄せください。お話ししたいけど文章を書くのはちょっと、という方はお話を聞きに伺いますので、お知らせ下さい。



被災者の声がよみがえる朗読会を開催

3.11
を忘れない 祈りの集い

「三・一一を忘れない 祈りの集い」が二〇一四年三月十一日午後一時から、松源寺において催されました。「東日本大震災三周年追善供養」と「三・一一慟哭の記録 七一人が体感した大津波・原発・巨大地震」(新曜社)を読む」の二部構成で行われました。日常を取り戻した皆様と未だ不便な生活を強いられている方々を繋ぎたいと願い、さらに、生活と防災など、この震災から学んだことをもう一度考える機会として開催されました。五〇名ほどの参加者を想定していましたが、八〇名を超える皆様のご参加がありました。



追善供養 住職挨拶



朗読会全景



西田さんと柴山さん

* 禅の小窓 2 * 涅槃 寂

東日本大震災三周年追善供養

追善供養は松源寺本堂で行われました。東海泰典住職が挨拶しました。東日本大震災の犠牲者と、関連して急逝された方々に対し、一周忌法要、三回忌法要と供養を行ってきたこと。お檀家の中に犠牲者はなかったが、親族・友人・知人へのご供養ご焼香の場を提供したと思ったこと。今年は、犠牲者を悼み、復興のままならぬ中で不安な生活を強いられている皆様に思いをはせ、大震災を忘れない気持ちと、防災を意識する機会を持ちたいと思ったこと、などが述べられました。住職と石塚哲英(東光寺)住職により、法要が執り行われました。般若心経に続いて、観音経が唱えられる中、参列者のご焼香が行われました。こもごも手を合わせる皆様の祈りが本堂に満ちていました。

『3.11 慟哭の記録 71人が体感した大津波・原発・巨大地震』(新曜社)を読む

朗読会は、松源寺永松閣で行われました。朗読は柴山光由(元仙台放送アナウンサー)さん、演奏は西田香(フルート奏者)さんです。この度は、柴山さんが体調を崩し、ご住職と柴山さんが相談して、朗読を録画して会場で上映することにしました。会場には、本書の編著者である金菱清(東北学院大学准教授)先生もみえました。柴山さんの朗読と西田さんのフルートの音色が作品世界を鮮烈に再現し、参加者の心を打ちました。朗読された作品は、宮城県南三陸町での大津波体験談である「大津波ババのへそくり泥の中」と、福島県大熊町での原発事故の体験談である「生まれた時から原発があつた」です。西田さんの最後の演奏「花は咲く」が始まると、会場から自然に声が起こり、合唱となりました。詳しくリポートは蕃山房ホームページをご覧ください。この催しは、YouTubeで配信されました。そして、松源寺のホームページでその動画を楽しむことができます。

松源寺通信 ― 永松だより

発行所 蕃山房
〒980-0801
仙台市青葉区木町通二丁目11
朝日プラザ北一番丁1階106B
電話 090-8250-7899
FAX 022-2224-5308

*情報のご提供、ご意見、ご質問などは、蕃山房にお寄せくださいますようお願い申し上げます。

第3号は10月発行予定です